

事業計画及び 成長可能性に関する説明

2024年5月30日
株式会社免疫生物研究所
(証券コード:4570)

今期更新箇所は赤字で記載しています。

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 化粧品関連事業
- 新中期経営計画&事業リスク
- その他

当第1四半期より報告セグメントの区分を変更し、
「遺伝子組換えカイコ開発事業」は「抗体関連事業」に含めております。
(2023年4月27日公表「報告セグメントの変更に関するお知らせ」をご参照ください)

事業内容

- ・抗体関連試薬製造販売、試薬関連受託サービス、
医薬シーズライセンス、体外診断用医薬品製造販売、
遺伝子組換えカイク関連製品製造販売、リポタンパク質
脂質プロファイリング解析サービス、臨床検査サービス
- ・ヒト型コラーゲン含有化粧品販売



企業理念

生物の生命維持に不可欠である免疫機構「抗体」について研鑽し、人類が病気から安全に免れるような医薬品や診断薬を提供いたします。特に、がん、自己免疫疾患、脳・神経関連疾患などの難病にかかわるタンパク質に対する抗体の開発を追求し、医薬、診断薬、研究用試薬として供給してまいります。そして、世界で難病に苦しむ人々が1日も早く病気を克服し、明るく豊かな暮らしを営めるように貢献いたします。

会社名	株式会社免疫生物研究所
設立日	1982年9月9日
代表者	清藤 勉
本社住所	群馬県藤岡市中1091番地1
資本金	5,000万円 (発行済み株式数:9,314,590株)
従業員数	57名 (前期比2名減)
役員数	取締役6名 (社外2名) 監査役3名 (社外3名) 2024年3月31日現在
子会社	株式会社ネオシルク化粧品 株式会社AI Bio

事業内容

抗体関連試薬製造販売
試薬関連受託サービス



遺伝子組換えカイコ関連
製品製造販売



グループ



医薬シーズライセンス
体外診断用医薬品製造販売

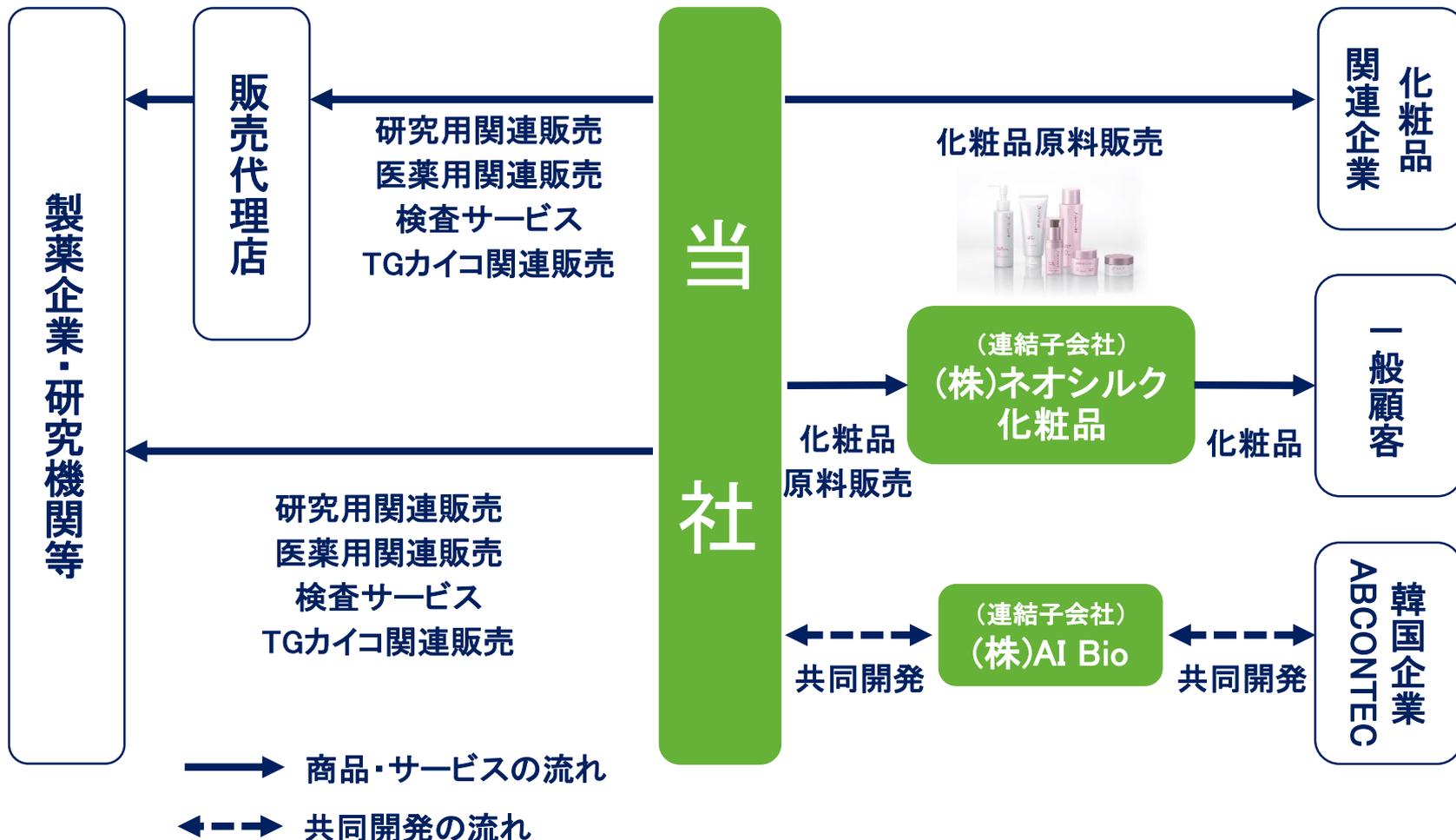


ヒト型コラーゲン含有
化粧品販売



リポタンパク質脂質プロファイリング解析サービス
臨床検査サービス

当社グループの事業概要



当社グループの事業セグメント

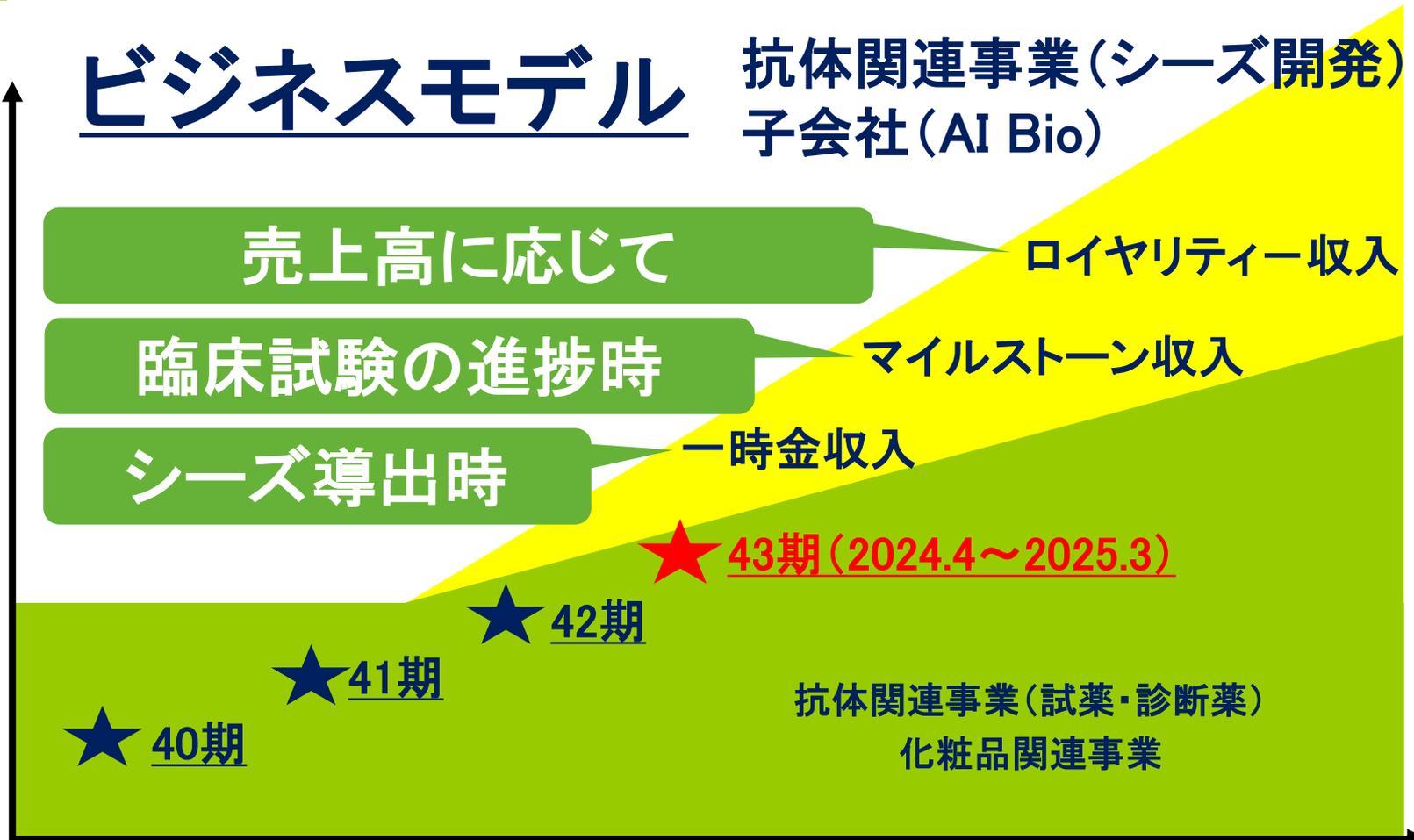
セグメント	事業内容
抗体関連事業 (IBL / AI Bio)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 研究用試薬の開発・製造・販売 ◆ 体外診断用医薬品の開発・製造・販売 ◆ 医薬品原薬の開発・導出 ◆ リポタンパク質・脂質プロファイル解析サービス ◆ 研究検査・HPLC測定項目の受託測定 ◆ カイコ繭による抗体やタンパク質の生産・販売
化粧品関連事業 (IBL / NSC)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ カイコ繭によるネオシルク®-ヒト型コラーゲンの生産・販売 ◆ ネオシルク®-ヒト型コラーゲン配合化粧品の製造・販売

IBL : 株式会社免疫生物研究所
NSC : 株式会社ネオシルク化粧品
AI Bio : 株式会社AI Bio

ビジネスモデル

抗体関連事業(シーズ開発)
子会社(AI Bio)

企業価値



売上高に応じて

ロイヤリティー収入

臨床試験の進捗時

マイルストーン収入

シーズ導出時

一時金収入

★ 43期 (2024.4 ~ 2025.3)

★ 42期

★ 41期

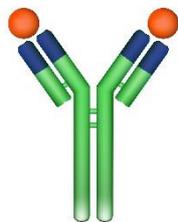
★ 40期

抗体関連事業(試薬・診断薬)
化粧品関連事業

将来

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 化粧品関連事業
- 新中期経営計画&事業リスク
- その他

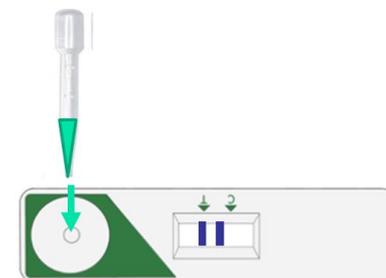
会社の基盤技術：抗体



体の中で作られるタンパク質
体内に侵入したウイルスなどに結合して排除する働き、
いわゆる「**免疫**」を担っています。

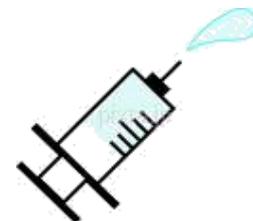
- 様々な物質（抗原）を識別し、結合する性質

→抗原（タンパク質など）の検出・分離・精製など
研究用試薬、診断薬として利用
例）インフルエンザウイルス抗原検査用キット



- がん細胞を殺傷したり、病因になる物質を中和する能力

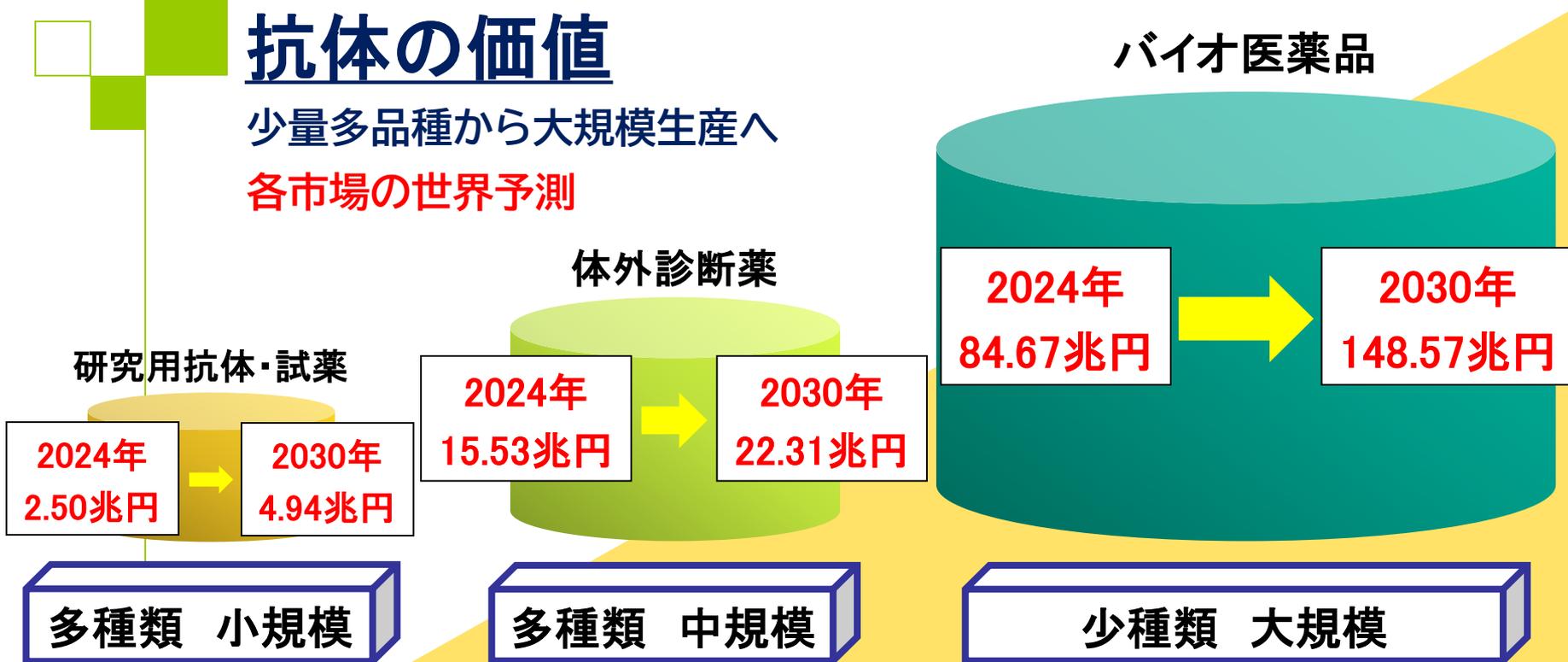
→抗体自身を治療薬として用いる、**抗体医薬品**の開発
例）乳がん、大腸がん、関節リウマチなどの治療薬



当社製品は、ニッチ製品で他社との差別化を図っているため、
競合環境については、特段の経営リスクとして扱っておりません

抗体の価値

少量多品種から大規模生産へ
各市場の世界予測



診断薬から医薬品として利用されるにつれて付加価値が高まります

出所		
研究用試薬	株式会社グローバルインフォメーション 「研究用抗体・試薬市場：製品、技術、適応症、用途、エンドユーザー別-2024~2030年世界予測」参考	1\$ = 135円で当社試算
体外診断用医薬品	株式会社グローバルインフォメーション 「体外診断薬市場：構成要素、技術、検体、用途、エンドユーザー別-世界予測2024-2030年」参考	1\$ = 135円で当社試算
医薬品	株式会社グローバルインフォメーション 「バイオ医薬品市場：製品タイプ、サービス、原料タイプ、用途別-2024~2030年の世界予測」参考	1\$ = 135円で当社試算

事業内容

抗体関連試薬製造販売
試薬関連受託サービス



遺伝子組換えカイコ関連
製品製造販売



グループ



医薬シーズライセンス
体外診断用医薬品製造販売



ヒト型コラーゲン含有
化粧品販売



リポタンパク質脂質プロファイリング解析サービス
臨床検査サービス

当社は1982年(昭和57年)以来、
5,000種類以上の抗原に対して抗体を作製してきました。
この間に抗体作製のノウハウが蓄積され、当社のコア技術として確立されております。

○ 技術の活用例

・ELISAキットの開発、製造、販売

実績は100種類以上

アルツハイマー病関連

メタボリックシンドローム関連

がん関連

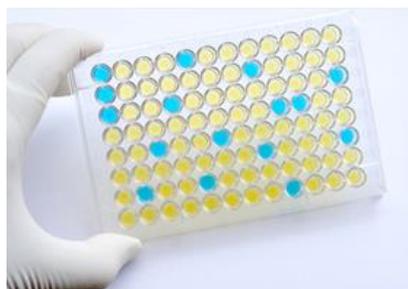
自己免疫疾患関連

腎疾患

老化マーカー

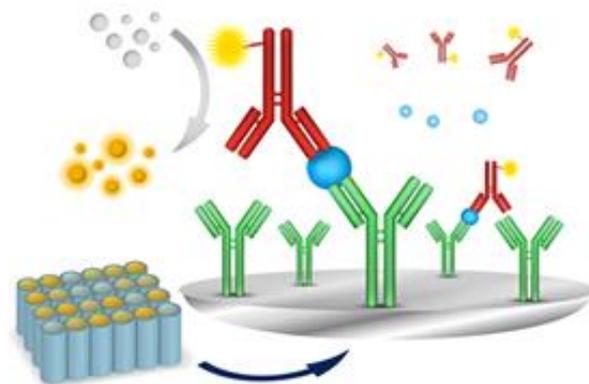
生活習慣病関連

筋疾患



など

※ ELISA: 溶液中の目的物(タンパク質、抗体、
低分子抗原など)の量を、抗原抗体
反応により検出・測定する手法



特注抗体及びELISA系の作製など、
受託サービスも提供しております。

○ 代表的な製品例

#27412 Human Total Angiotensinogen Assay Kit – IBL

・主な研究：高血圧



#27713 Human Amyloid β (1-40) Assay Kit – IBL

・主な研究：アルツハイマー病



#27998 Human soluble α -Klotho Assay Kit – IBL

・主な研究：老化



#27700 GLP-1, Active form (High sensitivity) Assay Kit – IBL

・主な研究：糖尿病



事業内容

抗体関連試薬製造販売
試薬関連受託サービス



遺伝子組換えカイコ関連
製品製造販売



グループ



医薬シーズライセンス
体外診断用医薬品製造販売



ヒト型コラーゲン含有
化粧品販売



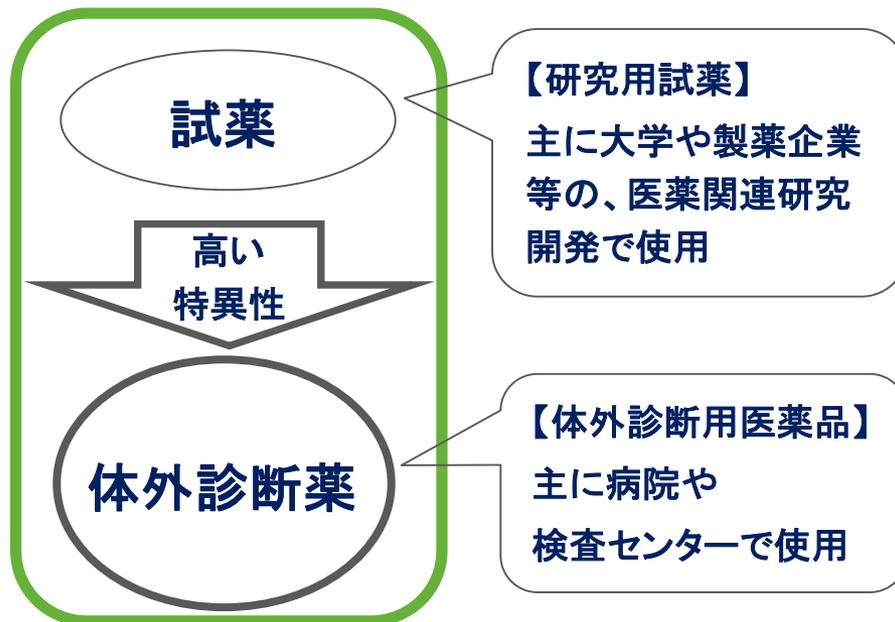
リポタンパク質脂質プロファイリング解析サービス
臨床検査サービス

- ・ISO 13485に基づいた厳格な品質管理
- ・体外診断用医薬品の原料抗体をグローバルに供給
- ・自社製品を体外診断用医薬品として承認申請
製造販売へ展開

IBLの抗体作製技術

体外診断用医薬品への取り組み

試薬事業の領域は非常に流動的であり、競争が激しいグローバル社会において、安定した収益を生み出すことが困難な領域となっております。安定した収益を生み出すためには、体外診断用医薬品の領域の製品化が必要であると認識しており、体外診断用医薬品の研究開発に注力してまいります。



成長戦略



体外診断薬開発の一例

前回記載していた「中耳洗浄液中のCTP (Cochlin-Tomo-Protein)測定キットによる外リンパ瘻の診断」のスライドに関しては、上市されたことに伴い削除いたしました。

赤痢アメーバ抗体測定キットによるアメーバ赤痢の診断

赤痢アメーバ(*Entamoeba histolytica*)という原虫によって引き起こされる感染症をアメーバ赤痢と呼んでいます。アメーバ赤痢は感染症法において第五類感染症に分類されており、診断後7日以内の届け出が義務付けられています。



従来法の血清赤痢アメーバ抗体

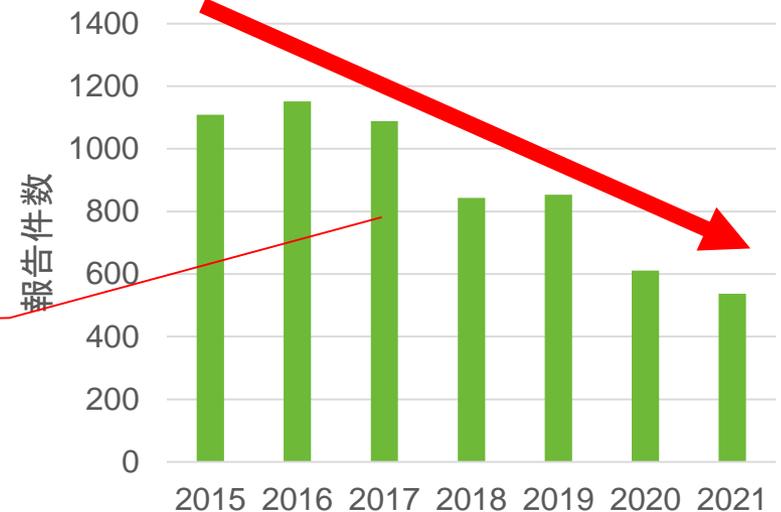
検査試薬が製造中止



報告数の減少が製造中止による影響なのか患者数が減少しているのか分からない

アメーバ赤痢報告件数推移

国立感染症研究所 発生動向調査年別一覧(全数把握)より
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/ydata/11530-report-ja2021-30.html>

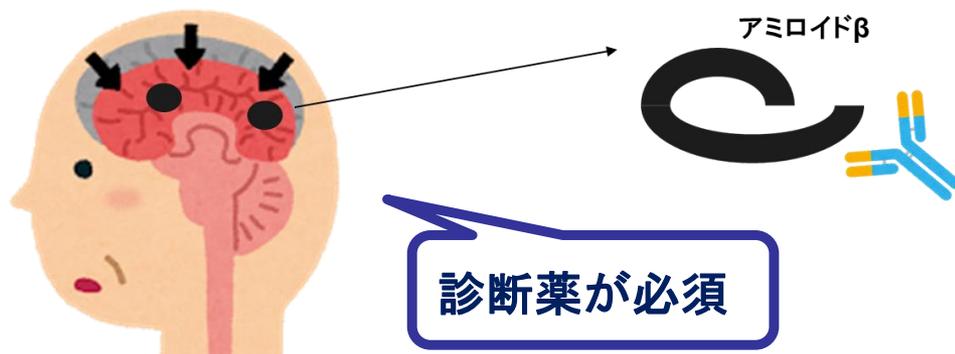


当社は赤痢アメーバ腸管感染症の早期発見とアメーバ赤痢の正確な発生動向調査に貢献するために、新規に体外診断用医薬品「赤痢アメーバ抗体ELISA-IBL」を開発し、この度、製造販売承認を取得いたしました。本品の使用により、臨床現場での血清中抗体検査による診断が再び可能になります。

体外診断薬開発の一例

当社のアミロイドβに対する各種の抗体は、数多くの論文で採用され、世界中の研究者が使用しております。

アルツハイマー病に対する抗体医薬が
米国FDAで承認



米製薬企業バイオジェンと日本のエーザイが共同開発するアルツハイマー治療薬「レカネマブ」が、アルツハイマー病に対する抗体医薬として米国FDAで承認されたことにより、アルツハイマー病に対する早期段階の診断薬が必要となります。

当社は、現在所有するアミロイドβ関連の抗体群を活用し、国内外へ診断薬原料として展開しております。

開発中の主なテーマと進捗状況

標的分子	グルカゴン	Titin-Nフラグメント	赤痢アメーバ	CTP(Cochlin-Tomo-Protein) イムノクロマト法
上市予定	2025年3月期	2025年3月期	2025年3月期	未定
対象疾患	血糖調節因子	神経筋疾患	赤痢アメーバ症	外リンパ瘻
申請区分	既存(クラスⅠ)	新規(クラスⅢ)	既存(クラスⅢ)	新規(クラスⅢ)
共同研究先	群馬大学	神戸大学 昭和大学	海外企業	埼玉医科大学
前回進捗	2024年3月期 販売承認申請予定 準備中	神経筋疾患診断薬を めざし、認定試薬として 販売を開始	2024年3月期上期に 体外診断用医薬品 製造販売承認 申請予定	研究開発中 イムノクロマト法
今回進捗	最終準備段階 2025年3月期 第1四半期に販売承認 申請予定	研究開発中	体外診断用医薬品 製造販売承認取得 保険適用に向けて 準備中	研究開発中 イムノクロマト法
IBLの役割	試薬開発 医薬品申請	試薬開発 医薬品申請	医薬品申請	・試薬開発 ・受託製造

シスメックス(株)との共同開発

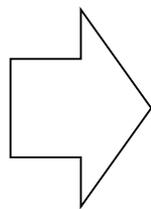
⇒数品目の診断薬原料候補の抗体やたんぱく質の共同開発を行っております。

近年がんを始め、様々な疾病の治療に抗体医薬が利用されるようになってまいりました。抗体の高い特異性を利用して標的細胞などを狙い撃ちできるため、従来の治療法とは異なり、副作用が少ないとされております。抗体作製に関わる技術と経験を基に、将来の医薬に役立つシーズを見出し、ライセンスビジネスに積極的に取り組んでおります。

シーズ探索

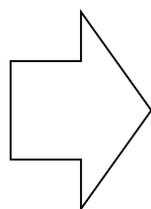


ウイルスに感染した患者の免疫細胞

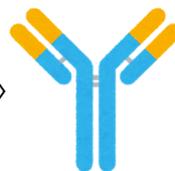


動物試験

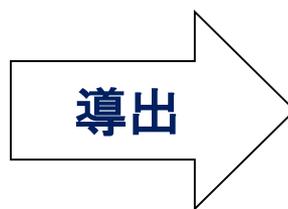
効果の確認



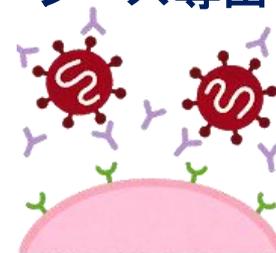
シーズ開発



抗体の遺伝子を取り出し抗体医薬品に加工



導出

製薬企業へ
シーズ導出

ウイルスを攻撃する抗体医薬品

当社は長期間におよぶ医薬品シーズの研究開発において、開発コストを最小限に抑え、動物試験における効果の確認が認められたシーズの導出を目指してまいります。

当社では抗体作製技術を基盤として、
治療用医薬品に適した抗体の創製に取り組んでおります。
治療用医薬品開発においては、製薬企業各社がパイプラインを充実させるために
医薬シーズに係る権利の譲渡又は許諾を受ける活動を積極的に展開していることを
受けて、当社の人的資源と効率を鑑み、創薬ターゲットの探索及び
そのターゲットに対する各種抗体の作製とそれら抗体の薬効評価に特化しております。

2021年2月16日に合弁会社「AI Bio」(持分法適用会社)を設立

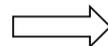
「ABCONTEK社と、ダニ媒介性感染症である
SFTS(重症熱性血小板減少症候群)を治療するための
抗体医薬品候補「ACT101」の共同開発について

予定していたカニクイザルを使用した非臨床試験を一旦中止し、
現時点で取得済みの試験結果を用いて早期の導出に注力してまいります
(2023年3月14日公表の「連結持分法適用会社株式会社 AI Bioの子会社化に
関するお知らせ」を参照)。

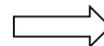
また、SFTSにおける動物用(ネコやイヌ等のペット)体外診断用医薬品について
検討を進めております。

→SFTSにおける動物用(ネコやイヌ等のペット)体外診断用医薬品
についての検討は、一旦中止し、早期の導出に向けて活動を行っております。

国立大学法人徳島大学と、
胃や腸の消化管壁の粘膜下にある未熟な間葉系細胞に由来する
「肉腫」の一種とされるGIST(消化管間質腫瘍)を、
診断・治療するための抗体医薬品を研究開発中。
製薬企業等への導出等を目指す。



患者
に
投与



内視鏡検査によって色素を検出
⇒腫瘍の位置を特定(診断)
⇒近赤外線照射により腫瘍を治療

日本国内における「c-KIT陽性腫瘍特異的抗体断片」に関する特許を取得
(2024年4月4日公表の「特許取得に関するお知らせ」参照)し、
今後について、提携先と協議を進めております。

事業内容

抗体関連試薬製造販売
試薬関連受託サービス



遺伝子組換えカイロ関連
製品製造販売



グループ

医薬シーズライセンス
体外診断用医薬品製造販売



ヒト型コラーゲン含有
化粧品販売

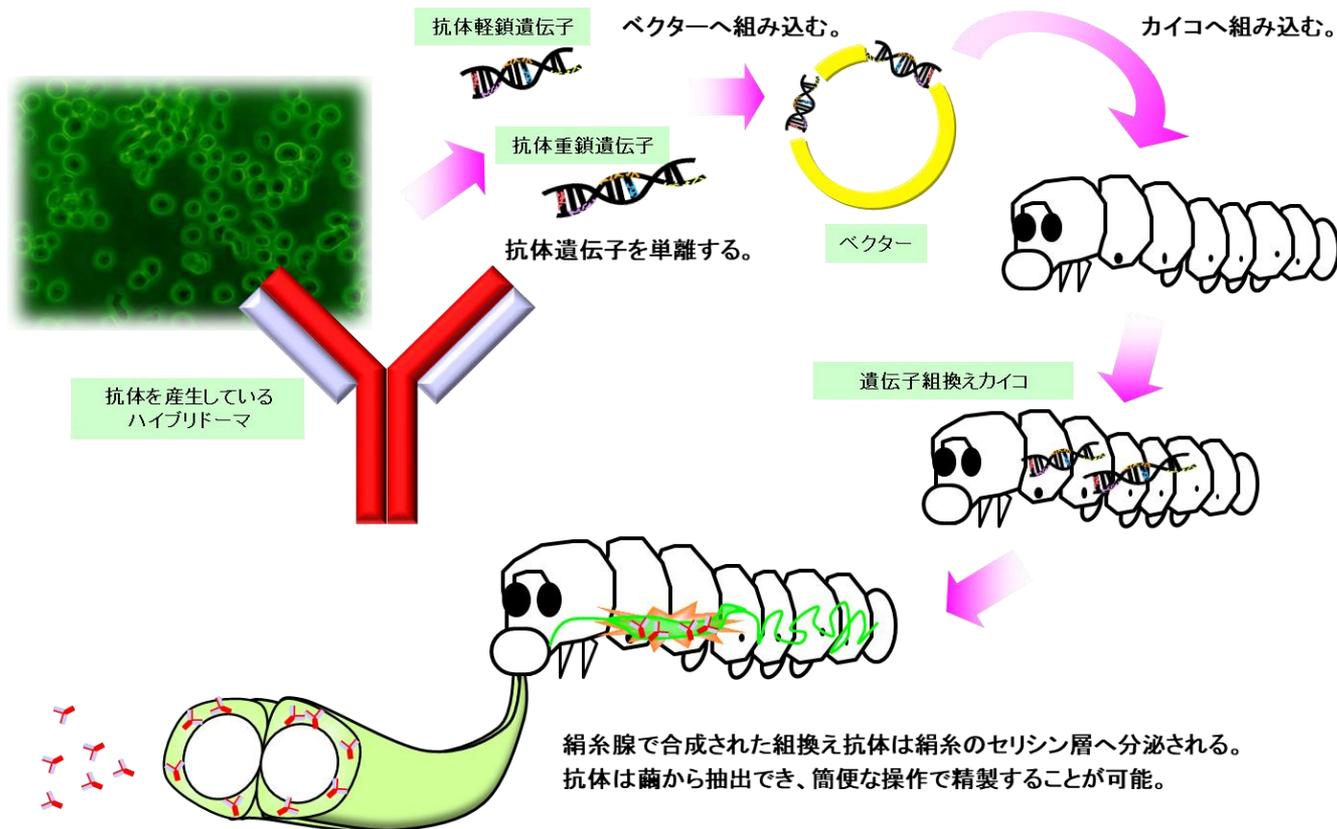


リポタンパク質脂質プロファイリング解析サービス
臨床検査サービス

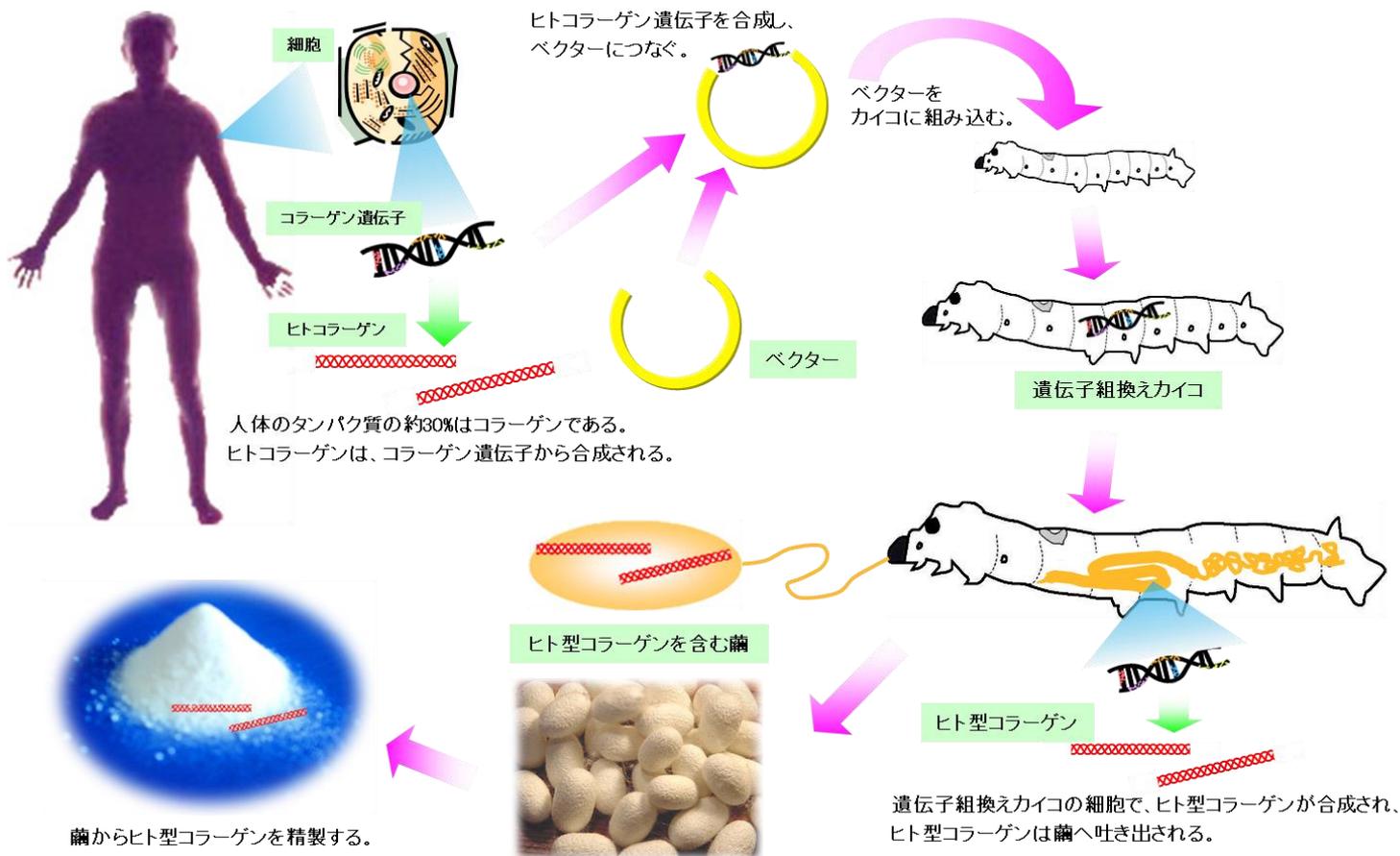


◆カイコ繭による抗体やタンパク質の生産・販売

遺伝子組換えカイコにより生産された抗体は、
非特異反応が低く、また、動物愛護の対象とならない



◆ 遺伝子組換えカイコによるヒト型コラーゲン生産



* カイコで生産したヒト型コラーゲンは**三重らせん構造を有しません。**
(魚由来のコラーゲンもヒトの体温では三重らせん構造を維持できない)

◆遺伝子組換えカイコにより生産された抗体の優位性

①非特異反応が低い ②動物愛護の対象とならない ③生産コストの低減

既存製品ラインナップ

ラミニン 511-E8 (iMatrix-511 Silk)

体外診断用医薬品原料(大手診断薬メーカーへの原料供給)

Amyloid β 関連抗体(ELISAキット原料)

組換えヒトフィブロネクチン(培養足場材)

※2023年3月13日より販売開始



「ヒト型コラーゲン I」のOEM提供

303 Pharma Srl(イタリア法人)との間でOEM契約を締結し、「ヒト型コラーゲン I」を303 Pharmaの自社ブランド製品として提供することになりました。



利益の創出

当該製品群は今後も生産・製造方法の改良を行い、生産コストの低減を図り、遺伝子組み換え製品の価値増大を目指す

事業内容

抗体関連試薬製造販売
試薬関連受託サービス



遺伝子組換えカイコ関連
製品製造販売



IBL グループ



医薬シーズライセンス
体外診断用医薬品製造販売



ヒト型コラーゲン含有
化粧品販売



リポタンパク質脂質プロファイリング解析サービス
臨床検査サービス

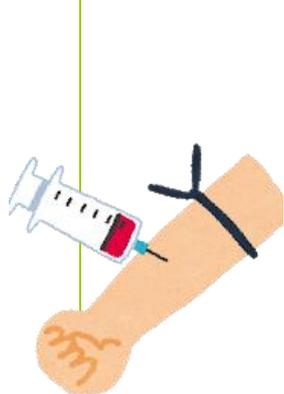
研究用試薬・体外診断薬の新しい市場開拓のため
登録衛生検査所(群馬県 第54号)を開設し、
外部からの検体を受入れて検査を実施しています。



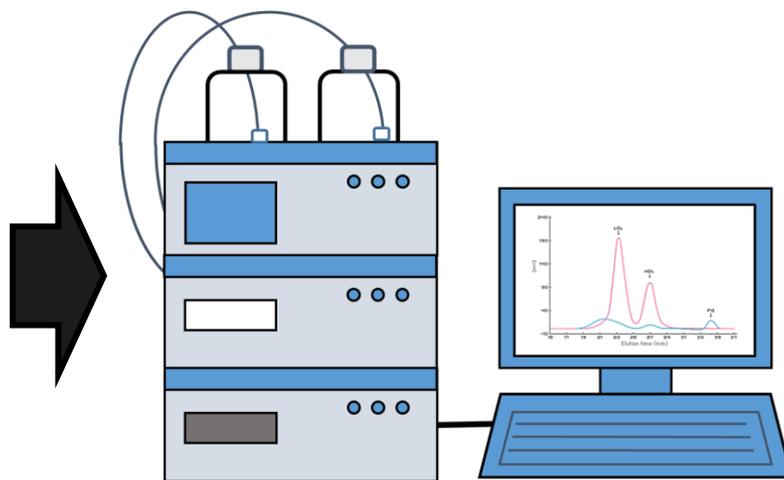
IBLの特色ある測定キット、
診断用医薬品を用いた検査を受託
→IBL製品の有効活用
→新しい市場の開拓
→研究用検査
→自由診療への展開も可能

LipoSEARCHは、悪玉／善玉コレステロール・中性脂肪などを詳細に網羅的にプロファイリングする研究検査サービスです。

脂質代謝研究、脂質代謝関連新薬の非臨床試験、臨床開発試験、機能性食品開発、トクホ試験、などにおいて利用されております。さらに、リポタンパク質の「粒子数」の分析が可能になり、動脈硬化や心疾患リスクの把握に役立つ、より詳細なデータが取得できるようになりました。人間ドックなどの自由診療、さらにペットの検査も進めています！

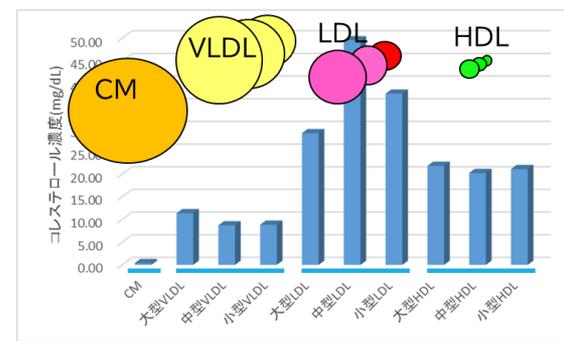


微量の血液



ゲルろ過-HPLC法による分析

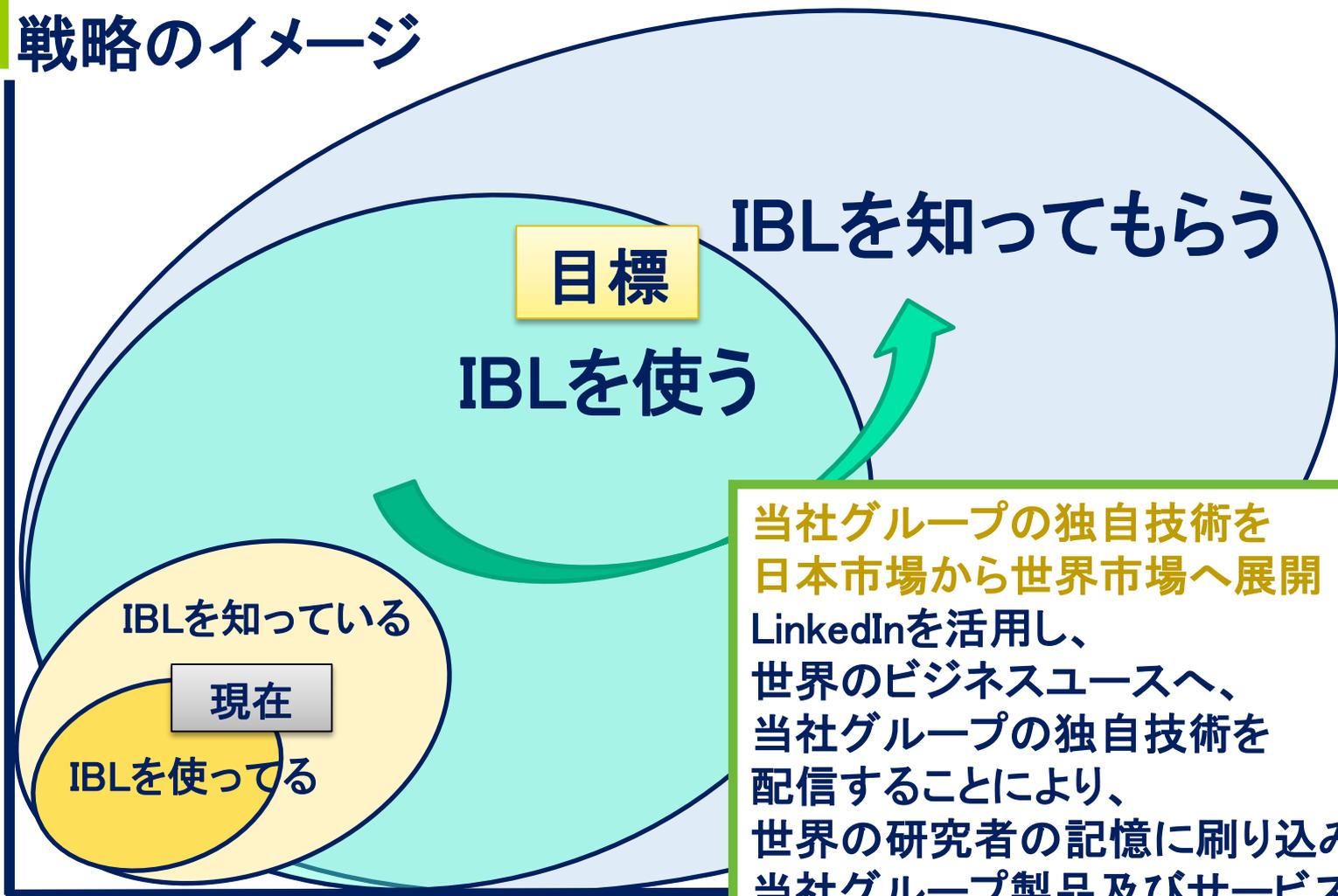
リポタンパク質サブクラスのコレステロール濃度



独自の解析法で解析

戦略のイメージ

世界市場
↑
日本市場



当社グループの独自技術を
日本市場から世界市場へ展開
LinkedInを活用し、
世界のビジネスユースへ、
当社グループの独自技術を
配信することにより、
世界の研究者の記憶に刷り込み、
当社グループ製品及びサービス群
の利用機会を拡大させる。

数値目標 抗体関連事業

注1 医薬シーズの導出による収益は含まれていません

前回(2023.5.31)

(単位:百万円)	40期実	41期実	42期予	43期中	44期中
抗体関連事業(売上高)	634	790	835	920	1,010
診断試薬サービス	503	678	720	780	850
検査サービス	86	64	75	90	100
※TGカイクサービス	44	47	40	50	60
営業利益	△110	71	黒字 87	135	195

今回(2024.5.30)

(単位:百万円)	40期実	41期実	42期実	43期予	44期中	45期中
抗体関連事業(売上高)	634	790	812	915	1,010	1,110
診断試薬サービス	503	678	702	750	800	850
検査サービス	86	64	61	75	90	100
※TGカイクサービス	44	47	48	90	120	160
営業利益	△110	71	107	120	175	220

1. 42期実績の詳細につきましては、2024年5月14日公表の「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」を参照
2. 40期、41期の営業利益は、41期まで別セグメントで報告(P26参照)していた「遺伝子組換えカイク開発事業」における開発コストを抗体関連事業のTGカイクサービスに統合したため、変更を反映した数値を記載しております。(2023年4月18日公表の「報告セグメントの変更に関するお知らせ」を参照)

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 化粧品関連事業
- 新中期経営計画&事業リスク
- その他

事業内容

抗体関連試薬製造販売
試薬関連受託サービス



遺伝子組換えカイコ関連
製品製造販売



IBL

グループ

医薬シーズライセンス
体外診断用医薬品製造販売



ヒト型コラーゲン含有
化粧品販売



リポタンパク質脂質プロファイリング解析サービス
臨床検査サービス



医療レベルからの研究により
本物の「安心と安全」を追求した、こだわりの化粧品

ネオシルク化粧品は、医薬品の研究開発をする
「免疫生物研究所」が作った化粧品会社です。

お肌の悩みは女性によってさまざまですが、
それを改善し、年齢を重ねても美しくすこやかなお肌でいることは、
女性にとって何にもかえがたい輝きだと信じています。

その自信の研究成果の第一弾が「ネオシルク®-ヒト型コラーゲン I」です。
これまで使用されている異種動物由来のものとは
まったく違う新しいコラーゲンです。

是非、今までにない化粧品への感動を
あなたのお肌で実感してください。



世界初!^{※1}
先進成分

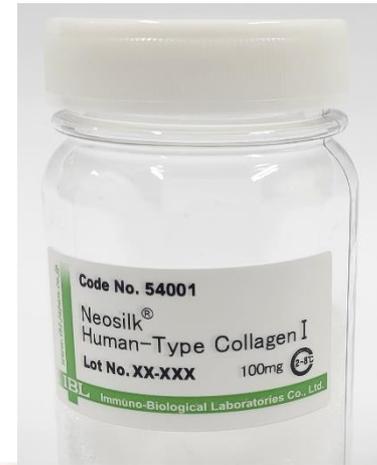
お肌が安心して受け入れる本物のコラーゲン
「ネオシルク®-ヒトコラーゲン I」
配合の化粧品ブランド

frais vent
フレゼヴァン

無香料・弱酸性・無着色・
動物由来原料不使用・
アルコールフリー・無鉱物油・
パラベンフリー



ネオシルク®-ヒト型コラーゲン配合化粧品 「フレヴァンシリーズ」



neo silk cosmetics

人へ肌へ、正直に。

真実にまっすぐに。

ネオシルク化粧品は、お肌にとって本当に安全で安心な化粧品で、たくさんの女性のお肌を美しく、感動を与えます

当社製品は、化粧品原料では世界で初めてヒト型のコラーゲンを開発し、従来の動物性コラーゲンとは一線を画しております。

化粧品用原料コラーゲンは、
かつては、ウシの皮膚由来がほとんど

- ・BSE等病原体混入の危険
- ・アレルギーを引き起こす可能性



現在は、魚由来が中心

- ・人に感染する病原体をもたない

**・アレルギーの問題は
未解決**

むしろ問題は大きくなったかもしれない

アレルギーは皮膚から・・・。

最近の学説では、皮膚から侵入したアレルギーが、
アレルギー症状を引き起こすきっかけになることが
判っている

医薬品タンパク質は、
安全性の面からヒト型が常識です。
ではなぜ、
肌につける化粧品用原料のコラーゲンは
ヒト型でなくても良いのでしょうか？



ヒト型コラーゲンを開発

- ヒト型であるため、
アレルギー性が低く、安心・安全
- カイコの繭から抽出されるため、
動物由来成分を含まない
- 水に溶けやすく、
扱いやすいヒト型コラーゲン

シルクから抽出する安全・安心なヒト型コラーゲン
ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ

注目の
ベビーコラーゲン
(Ⅲ型コラーゲン) 誕生

赤ちゃんの肌

I型コラーゲンをサポート

加齢で失われる
 Ⅲ型コラーゲン

「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ」は、通称ベビーコラーゲンと言われ、赤ちゃんの肌に多く存在し、加齢とともに減少していくと言われる、大変貴重なコラーゲンです。本製品は、トランスジェニックカイコのマユから精製するため、組換え遺伝子動物由来タンパク質、および防腐剤等を含みません。

化粧品原料「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ」を使用した高級化粧品の開発に取り組み、高品質を求めるユーザーに幅広く提供できる製品を開発し、販売拡大を目指す

2024年3月期中の製品化を目指す



2025年3月期中の製品化を目指す
 →303 PharmaとのOEM製品の開発を優先したため

ネオシルク®-ヒト型コラーゲン配合化粧品「フレヴァンシリーズ」

○国内販売

国内通信販売においては、国内販売代理店と情報共有を綿密に行いユーザーの拡大を図るとともにホームページの再構築をおこない売上高の増加を目指してまいります。

また群馬県の温泉地における高級旅館とのコラボレーション活動については、人員不足により活動が困難であったため中止いたしました。

○海外販売

中国及び欧州等海外市場への販売につきましては、人員不足により活動が停滞しております。

今後については引き続き、中国においてはSNSを活用して中国国内のバイヤーの方々に直接情報発信し、欧州等においてはEマーケティング(SNS)やAmazonへの出店、国際展示会での展示を行う方針とし、人材不足を解消し、現地代理店やインフルエンサーを活用した販売戦略を強化することにより、販売拡大を目指してまいります。

数値目標

前回 (2023.5.31)

(単位:百万円)	40期実績	41期実績	42期予想	43期中計	44期中計
化粧品関連事業(売上高)	13	4	15	20	30
営業利益	△12	△13	3	5	10

今回 (2024.5.30)

(単位:百万円)	40期実績	41期実績	42期実	43期予	44期中	45期中
化粧品関連事業(売上高)	13	4	3	10	15	20
営業利益	△12	△13	△3	0	3	5

黒字化

利益の拡大

黒字化

利益の創出

当社グループの人材や設備面における投資戦略においては、診断試薬事業を優先しており、化粧品関連事業における前回の数値目標を達成するための人材・設備面の投資等に対しては厳しい状況が継続しております。その結果、今回の目標数値は、前回の目標数値から大幅に減少しております。なお、今期につきましては、1名の人材確保を予定し、今回の目標数値を目指してまいります。また、化粧品原料「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ」を使用した高級化粧品の開発に取り組み、幅広いユーザーに提供できる製品を開発してまいります。

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 化粧品関連事業
- 新中期経営計画&事業リスク
- その他

前回(2023.5.31) 数値目標

2024年3月期(42期)～2026年3月期(44期)

(単位:百万円)	39期 (実績)	40期 (実績)	41期 (実績)	42期 (予想)	43期 (中計)	44期 (中計)
売上高 注1	602	647	794	850	940	1,040
抗体関連事業	588	634	790	835	920	1,010
化粧品関連事業	14	13	4	15	20	30
営業利益(△損失)	△240	△122	黒字化 57	90	140	205
抗体関連事業	△54	△14	黒字化 151	87	135	195
遺伝子組換えカイク開発事業 (研究開発費)	△172	△95	△80	<u>「抗体関連事業」へ統合</u>		
化粧品関連事業	△13	△12	△13	黒字化 3	5	10
経常利益(△損失) 注2	△310	△243	△149	90		
親会社株主に帰属する 当期純利益(△損失)	△318	△258	△289	80		

注1 ①医薬シーズ導出による収益は含まれていない
 ②遺伝子組換えカイク事業は開発に集中するため、製造・売上高については、抗体関連事業に集約

注2 持分法による投資損失を含む

今回(2024.5.30) 数値目標

2025年3月期(43期)～2027年3月期(45期)

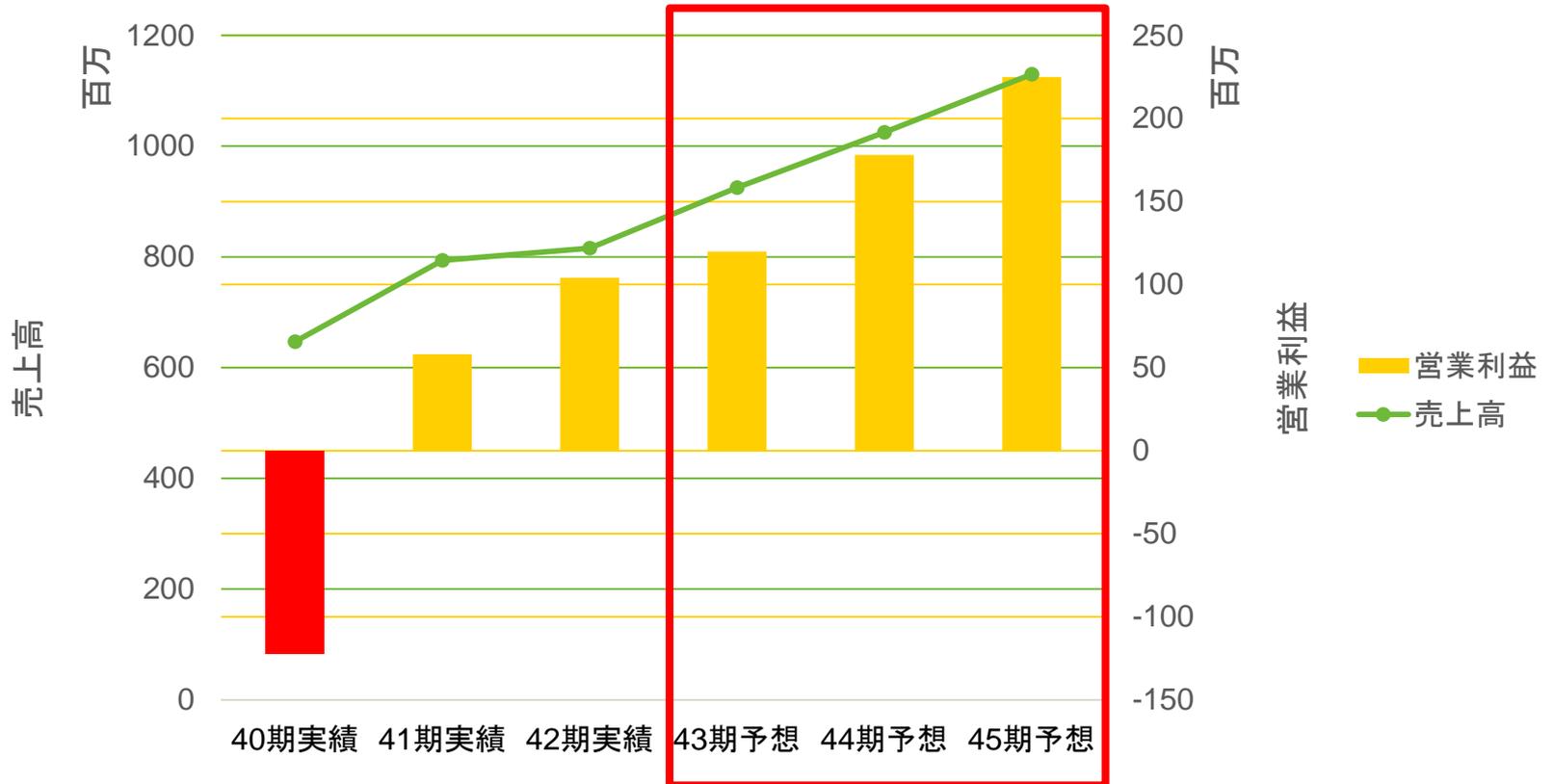
(単位:百万円)	40期 (実績)	41期 (実績)	42期 (実績)	43期 (予想)	44期 (中計)	45期 (中計)
売上高	647	794	816	925	1,025	1,130
抗体関連事業	634	790	812	915	1,010	1,110
化粧品関連事業	13	4	3	10	15	20
営業利益(△損失)	△122	57	104	120	178	225
抗体関連事業	△109	71	107	120	175	220
化粧品関連事業	△12	△13	△3	黒字化 0	3	5
経常利益(△損失)	△243	△149	※125	120	医薬シーズ導出による収益は含まれていない	
親会社株主に帰属する 当期純利益(△損失)	△258	△289	※186	115	42期実績の詳細につきましては、 2024年5月14日公表の「2024年3月期 決算短信[日本基準](連結)」を参照	

※42期実績数値の営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、税効果会計における繰延税金資産の計上及び当期取得固定資産の会計処理(2024年5月10日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」を参照)が影響しております。

今回(2024.5.30) 数値目標

2025年3月期(43期)～2027年3月期(45期)

売上高及び営業利益の推移目標



新中期経営計画(2024年5月30日策定)について

売上高について施策

SNS等を活用した情報戦略を更に強化し、各国で開催される展示会等にも積極的に参加し、海外代理店との連携を強化してまいります。また、海外の情報戦略を国内販売へ展開し、ユーザーや代理店、インフルエンサーとの関係強化を図ってまいります。さらに、安定した収益を生み出すため、有意性の高い抗体を開発し、体外診断用医薬品領域の製品化を進め、販売に注力してまいります。

増加要因

新中期経営計画の売上高は、診断試薬サービスの海外販売や診断薬原料関連の売上高増加を見込んでいることに加え、検査サービス、TGカイクサービス、化粧品関連事業においても売上高増加を見込んでいるため、前回に比べ増加となる予想です。

新中期経営計画(2024年5月30日策定)について

損益について

42期は営業利益並びに経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の黒字化を達成しております。43期以降については、更なる売上高の増加を見込んでおり、人材・施設面においても効率的な運用を行い、営業利益の増加を目指してまいります。なお、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益については税効果会計の適用及び新規取得固定資産の会計処理の変更(「通期業績予想の修正に関するお知らせ」(2024年5月10日公表)を参照)により、前年に比べ減少する予想です。

税効果会計の適用

将来減算一時差異に対して繰延税金資産67百万円を計上(C/Fに影響なし)
親会社株主に帰属する当期純利益に影響(法人税等調整額)

新規取得の固定資産について、全額費用計上(簿価の切り下げ)を行ってまいりましたが、当連結会計年度は、簿価の切り下げは不要と判断
営業利益に影響(前期の会計処理比べて、+19百万円C/Fに影響なし)

来期以降の利益額に与える影響は軽微

第3回新株予約権の発行及び権利行使により調達した資金の実施状況

単位: 百万円

課題	具体的な資金用途	金額	支出予定時期	2024. 3時点 の実施状況
①	(完了) 医薬品原料の生産管理をするためのノウハウや人材の確保および医薬品原料の製造工場の設計資金	200	2017年1月 ～2018年12月	完了
	(完了) T G カイコ大量飼育に関わる機械装置及び設備の設計及び購入資金	300	2018年10月 ～2021年3月	完了
②	当社グループの事業資金	350	2020年7月 ～2022年3月	完了
⑤	遺伝子組換えカイコ事業を軌道に乗せるための人材確保やノウハウ獲得資金	200	2020年4月 ～2023年3月	完了
⑥	あらたな医薬品シーズの研究開発資金	200	2020年10月 ～2023年9月	完了
⑦	体外診断用医薬品や体外診断用医薬品原料の開発	350	2023年4月 ～2025年3月	<u>120</u>
	合 計	1, 600		

他社との業務提携、合併会社設立等について

当社グループは戦略を実行していく上で、合併企業の設立や子会社化(持分法適用会社化を含む)を行うなど、他社の買収やその他の株式投資を行う可能性があります。当社グループの業務提携先や合併先に対して、当社グループが支配権を有するとは限らず、これらの会社が当社グループの意向にかかわらず、事業戦略を大幅に変更する可能性があります。さらに、当社グループの持株比率が低下したり、その経営成績や財政状態が大幅に悪化する可能性もあります。これらの場合、その業務提携、合併事業などが期待通りの成果を生まない可能性や、継続が困難となる可能性があります。また、特定の第三者との業務提携や合併事業などを実施したことにより、他の者との業務提携や合併事業などが制約される可能性もあります。

リスク対応策

顕在化の可能性	中
顕在化の時期	常時
影響度	中

各投資の実行の検討に際し、リスクの大きさに応じ、必要十分なデューディリジェンスを実施した上で、定められた承認プロセスを経て投資判断を行っております。

また、業務提携先や合併先との契約において、出来る限り当社のリスクを排除し、コミュニケーションを駆使し業務提携先や合併先の情報収集に努めるなど、トラブルを回避するための措置を講じて参ります。

特定人物への依存について

代表取締役社長である清藤勉は、当社グループの創業以来の最高経営責任者であり、事業の立案や運営、開発活動の遂行等についてリーダーシップを発揮しています。また、当社グループは小規模な組織であり、人的資源に限りがあるため、個々の役職員の働きに依存している面があります。今後の事業展開に必要な役職員が、不慮の事故等何らかの理由により当社グループの事業展開に関与することが困難になった場合には、当社グループの事業及び業績に大きな影響を与える可能性があります。

リスク対応策

顕在化の可能性	中
顕在化の時期	常時
影響度	大

優秀な人材の確保に積極的に取り組み、また属人的な事業体制を見直すために、権限の委譲や業務分掌に取り組んでおります。

医薬品シーズ開発における進捗について

当社は、社外との連携を構築することにより効率的な研究開発を進めております。しかしながら、当初計画したとおりの研究開発の結果が得られない場合や計画の遅延・中止が生じる可能性があります。研究開発が計画通りに進捗しない場合には、当社グループの業績及び財務状況が影響を受ける可能性があります。

リスク対応策

顕在化の可能性	中
顕在化の時期	常時
影響度	中

当社はこのような事態を極力回避するため、進捗管理や評価を行い、開発内容の優先順位や研究開発資源の変更、あるいは研究開発の一時中止の決定などの対応を行っております。

※その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」を参照ください。

前回記載していた「遺伝子組換えカイコ事業への投資について」のリスク対応策に関するスライドに関しては、当第1四半期より報告セグメントの区分を変更し、「遺伝子組換えカイコ開発事業」は「抗体関連事業」に含めた為、削除いたしました。

(2023年4月27日公表「報告セグメントの変更に関するお知らせ」をご参照ください)

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 化粧品関連事業
- 新中期経営計画&事業リスク
- その他

今後の開示について

当資料は、本決算発表の時期(2025年5月)を目途として更新し、開示を行う予定です。また、その他変動が生じた場合など、本資料に重要な影響を与える場合は、速やかに開示を行う予定です。



注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は様々な要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品申請の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。